

『解体新ショー』

NHK「解体新ショー」プロジェクト編（日本放送出版協会、2008年6月）

知能情報学部准教授 北村 達也

「薬指が思うように動かないのはなぜ?」, 「早口言葉がしゃべりにくいのはなぜ?」 私たちの体や心に関するこんな身近な疑問を実験にもとづいて解明するNHKのテレビ番組「解体新ショー」(2007年4月放送開始)がコンパクトな本になりました。私たち人間の様々な「行為」, 「心」, 「食」, 「パーツ」, 「お悩み」, 「感覚」に関する計68個の疑問に答えてくれます。

例えば, 上記の薬指が思うように動かない理由は, 薬指を伸ばす腱が両隣の指の腱とつながっているためとのことですが, 実は, 物を握ったり, つかんだりするときに一番活躍するのが薬指なのだそうです。また, 早口言葉が難しいのは, 規則性を裏切る複雑な舌の動きと, 理解しにくい単語の連続に脳が混乱するから, と説明されています。

私は, 音声科学の専門家としてこの番組の「ものまねの声は本当に似ているの?」の回に出演しました。音声科学の分野でも, ものまね音声研究の必要性は以前から指摘されていたのですが, プロによるものまね音声データは権利関係が難しく, 世界的にも研究例が少ないのが実情です。この回では, 当代随一のものまねタレント, コーギー富田氏が桂歌丸師匠の声をまねるといいたいへん豪華な顔ぶれで実験が行われました。

まず, 桂歌丸師匠の声を登録した音声入退室システム(声を鍵として使うシステム)をコーギー富田氏がだますことができるか, つまり, ものまね声で鍵を開けることができるかが実験されました。ものまね声を聞いてみると, 驚くほどよく似ています。しかしながら, コーギー富田氏がどんなに頑張っても鍵を開けることはできませんでした。

私たちの耳にはよく似て聞こえるのに鍵が開かなかったのはなぜでしょうか? それは, 私たちが

声の類似性を判断するのに使っている特徴と, システムが使っている特徴に違いがあるからです。私がものまね声を分析したところ, コーギー富田氏は, 声の抑揚, 周波数構造など知覚上重要な特徴を驚くほど似せていることがわかりました。しかし, 持って生まれた発話器官の構造などの制約によってどうしてもまねできない成分も存在しました。音声入退室システムはそういった部分も含めて類似性を評価しているため, たとえものまねの名人であっても鍵を開けることはできなかったのです。

さて, 研究室やスタジオで番組の収録が行われ, それが編集されて放送されてみると, 予想外の部分がカットされていることがわかりました。一般の方が番組を見て面白く感じ, かつ納得感を得るために, できるだけシンプルにわかりやすく編集されるのは理解できます。しかし, 私が重要だと思っていた部分までもが削られていたことは残念でした。そもそも, 人間に関する疑問は1つのシンプルな答えでは説明できない場合が多いのです。逆に, 私自身がそれまでテレビの科学番組を見て理解したと思っていたことは, 専門家が伝えたかったことの半分にも満たなかったのかもしれない。以来, 私はテレビの見方がずいぶん変わりました。

実は, この本もそれぞれの疑問に対する答えには, わずかに1ページしか割けていません。その答えを読んだだけで全てがわかった気になるのは大変危険です。私自身が担当したページに関しても十分に解説できたわけではありません。この本の読者には, むしろ, この本を足がかりに他の本を読んだり, 自分自身の疑問を調べたりしていただきたいと考えています。読者にそういった知的好奇心を喚起させることができれば, この本の役割は十分に果たせたといえるでしょう。